

# ぶらんこ

## 掛川市 智光こども園

園長 佐々木快典先生

今回、西部地区「ぶらんこ」で訪問取材をさせて頂いた園は、町の中心部である掛川城の近くに今年度から新園舎で開園した「智光こども園」さんです。



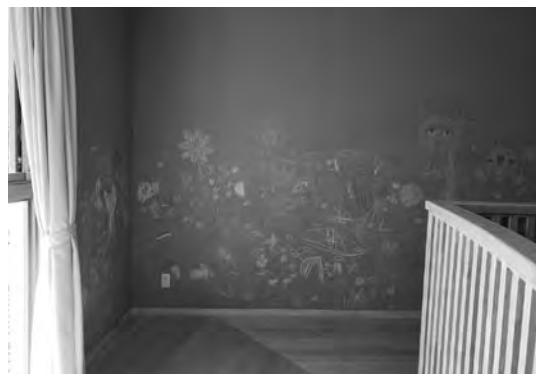
智光こども園としては一年目というのですが、前身の智光幼稚園として六十年の歴史があり、地域の幼児教育の拠点として活躍してきた園です。こども園化にあたり

学校法人天然寺学園から系列法人である社会福祉法人泉洞会へと法人の変更もあったそう  
で、乳児保育の勉強と設定保育から子どもの主体性を尊重する保育への転換のため、同法人の葛ヶ丘保育園との職員の交流も行い保育の質の向上に努めるなど、まさに転換期を迎えているということでした。

定員は、一号認定が百三十五名、二号認定が四五名、三号認定が三十名、合計二百十名で、九クラスが編成され、非常に活気のある賑やかな園です。



と、子どもたちに「やってみたいな!」と思わせる環境の工夫がそこかしこに見られ、非常に魅力的な作りとなっています。生き生きとした表情で夢中になつて遊び、いろいろなことを試してみたり、友だちとの関わりを楽しんだり、新たな発見を喜んだりする姿



保育方針は「いいな! やってみたいな!」を重点目標に掲げており、子どもたちの主体的な活動を大切に行っているということでした。実際に園庭や園舎を見渡して見ます



が多く見られ、園が子どもたちの心の拠り所になっていると感じました。もちろんそれは園舎のみの力ではなく、熱心な職員の皆様の努力の結晶でもありません。

園長先生に今後目指していく保育について伺いました。

遊びの中で失敗や衝突をしながら様々な能力を自ら引き出す特性を理解し、そうした体験で得た能力は、本や言葉で得た能力よりもずっと応用が効き、長く子どもたちの中に残っていくので、子どもたちの大好きな遊びをとことん追求し、学びや社会的ルールなどが子どもたちの中から自然と引き出される保育を目指していき、テストでは測れない「やり抜く力・コミュニケーション力、感情のコントロール力」なども、保育中の体験の中で伸ばしていきたい、ということでした。

認定こども園移行一年目であり、コロナ禍という大変な情勢の中、快く取材を受けて頂き、園長先生をはじめ職員の皆様には心より御礼申し上げます。ありがとうございました。